

# 松江観光愛の辛口批評

松江城 景色はすてきでも段差など多い

堀川遊覧 時間ちょうどでもガイドに偏り

## 神戸夙川学院大生ら



研修成果を発表する学生ら（松江市島根町で）

「観光施設の入場料などで学生・カップル割引を考えて」「若者向けにもっとインターネットを活用してPRしたら」。松江市で観光について学ぶ研修をしている神戸夙川学院大（神戸市中央区）の学生たちが21日、同市島根町のマリノパーク多古鼻で成果を発表した。若者たちの目で見えた松江は、へいといところVだけでなく、へだめなところVもあり、参加した観光関係者は耳の痛い意見も参考にしようという真剣に聞き入った。

18日から4泊5日の日程で始まった研修には1、2年生23人が参加。グループに分かれて名物の和菓子作りや観光イベント「松江水燈路」に出品する行灯作りに挑戦したほか、松江城や武家屋敷を散策したり、玉造温泉・松江しんじ湖温泉の旅館ではお手伝いをして、観光現場の実情などを学んだ。

発表会は4グループごとに1人ひとりが目に触れたことや感じたことを発表。2年坪井章さん(21)は「松江城は天守閣の景色が素晴らしいが、障害者が利用しやすいバリアフリー（障壁除去）が進んでいない。堀川遊覧船の遊覧時間はちょうどよいが、船頭さんによってガイドに偏りがあり、ある程度統一すべき」と観光施設ごとに辛口の提言をした。

また、今の観光は団体客から個人客への移行が進み、観光地巡りのガイド作

りも個人客用が必要との指摘もあった。古い建物やレトロな物をパンフレットなどでアピールすべきというグループがある一方、古さから新しさに移行すべきと逆の意見を述べるグループも。市立女子高国際文化観光科の1、2年生29人も参加して、大学生の発表を熱心に聞いていた。

松江観光協会の高橋一清・観光文化プロデューサーは「若い人たちの貴重な意見を聞かせてもらった。キャンパスに持ち帰って正規なリポートに仕上げたら、必ず送ってください。

さい。それは私たちが明日の松江の観光を考える時、貴重な資料になります」と講評した。

学生たちは最終日の22日、八重垣神社や出雲大社、花と鳥の公園「松江フォーゲルパーク」などを見学して帰途につく。